

平成22年度連絡協力促進事業

「日独交流事業」日独勤労青年交流

○日本プログラムを体験して、「社会の一員として働くことの意義」についての考えや意識を深めることができました。

○日本の伝統的な文化を体験することができました。

1. 事業実施までの経緯

日独交流事業は、日独両国間の理解と親善を深め、青少年交流の発展を図ることを目的として、日本では文部科学省の委託を受け、国立青少年教育振興機構が実施している。また、ドイツ連邦共和国では、ドイツ連邦家庭・高齢者・女性・青少年省の委託を受けて、ドイツ連邦共和国国際ユースワーク専門機関及びベルリン日独センターが実施している。

「日独勤労青年交流」は、平成8年の橋本首相とコール首相の日独首脳会談において、次世代を担う日独青年の交流が今後一層拡大されるべきであるとの認識の共有を確認し、平成9年6月のデッセルサミットで日独両国政府が共同で発表した「日独青少年交流の強化についての共同発表」に基づいて、日独の勤労青年を対象に就業体験等の研修や交流を通じて、両国の理解と友好を深め、国際的視野に立った有為な青年の育成と両国における青年交流の発展を図ることを目的として実施している。今年のテーマは「社会の一員として働くことの意義」である。

2. ねらい

戦後の復興により変容した日本人の生活、過疎化問題などを講義・全体企業研修等から検証し、地方と都会、戦後と戦前の比較からその仕事と生活の違いについて学習する。また、ホームステイにより、日本人の生活及び文化について体験を通して学ぶ。

3. 主催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構

4. 共催 ベルリン日独センター

5. 期 日

地方滞在プログラム 平成22年12月8日(水)～12月13日(月)

全日程(日本滞在期間) 平成22年12月2日(木)～12月15日(水)

6. 場 所 国立大洲青少年交流の家

7. 参加人数 23名(団長1名 団員22名)

8. 協力団体

東雲短期大学

天神産紙工場

株式会社あわしま堂

大洲市役所

株式会社仙味エキス

大洲まぼろし探偵団本舗

株式会社ブルーム・クラシック愛媛テクノ工場

茶道クラブ

肱南書学院

9. 日 程

	午 前	午 後	夜
12月8日(水)	移動	14:00～16:00 ①講義 地方青年の職業観の変遷 東雲短期大学 森 正康教授 17:00～18:30 大洲青少年交流の家概要説明 オリエンテーション (生活場所の案内を含む)	19:00～20:30 歓迎レセプション (大洲市・八幡浜市・西予市・内子町・伊方町の国際交流担当者及び訪問先担当者も参加)
12月9日(木)	8:45～11:30 ②伝統工芸を守る企業の現状と紙漉き体験(共通) 天神産紙工場 8:45～ 9:15 見学 9:15～10:45 社長講話(伝統工芸を守る企業の現状と課題)、意見交換 10:45～11:30 紙漉き体験	12:30～16:00 ③人材育成に関して先進的な取組を行っている企業訪問(共通) あわしま堂 12:30～13:00 昼食 13:00～14:00 工場見学 14:00～15:00 社長講話(仮題:若手職員の養成手法について) 15:00～16:00 意見交換	温泉体験と夕食
12月10日(金)	分野別企業研修 ④一般 大洲市役所 9:00～ ⑤福祉 おおぞふれあいスクール 9:00～10:30 ⑥製造 プルーム・クラシック 10:00～11:50	分野別企業研修 ④一般 大洲商工観光団体 13:00～15:30 ⑤福祉 大洲保育所 11:00～15:00 ⑥製造 仙味エキス 13:30～16:00	16:30～18:30 ドイツ団ミーティング 18:45～ ホストファミリーとの対面及び交流(夕食を兼ねる) 20:00 各家庭に移動
12月11日(土)	ホームステイプログラム	ホームステイプログラム	ホームステイプログラム
12月12日(日)	ホームステイプログラム	ホームステイプログラム (夕食を済ませて交流の家に集合)	18:30～20:0 ホストファミリーとのお別れ会 「文化交流のゆうべ」 茶道、書道、和服の着付等のブースを設けホストファミリーと一緒に体験(武道場) 20:30～22:00 ドイツ団ミーティング
12月13日(月)	ドイツ団ミーティング	12:30～14:30 全体評価会(青少年交流の家) 文部科学省1名、本部2名 15:00～ 貸切バスで大阪に移動	移動

10. 活動内容

12月8日(水)

講義「地方青年の職業観の変遷」東雲女子短期大学 森 正康教授

松山に到着後、森教授による講義が行われた。地方青年の伝統的な職業観、就業意識の変化と都市流出など、過去から現代に至るまでの変容について説明があった。長旅の疲れも見せず、熱心にメモを取り、話に耳を傾けていた。

歓迎レセプション

歓迎レセプションでは、交流の家スタッフと各地域の受け入れ担当者がドイツ団を迎え入れた。愛媛県立大洲農業高等学校の郷土芸能部が「豊年踊り」で歓迎すると、ドイツ団も地方色豊かなダンスで応えるなど、楽しい時間はあっという間に過ぎていった。



12月9日(木)

伝統工芸を守る企業の現状と紙漉体験

天神産紙工場

実際に紙漉体験をしたり、作業工程を見学したりして、日本の伝統工芸の現状を知ることができた。



人材育成に関して先進的な取組を行っている企業訪問 あわしま堂

社員食堂にて昼食を取り、お菓子の製造工程を見学し、木綱社長から人材育成の取組について説明を受けた。その後、職員と意見交換を行った。



12月10日(金)

分野別企業研修

一般分野では、大洲市役所と大洲商工観光団体に研修を行った。市役所では、まず、清水裕市長から市の特色と目指す町作りについて説明を受け、大洲市の概要を学び、その後、市職員と地方行政について意見交換を行った。大洲商工観光団体では、ポコペン横丁開催の背景や経緯、実施内容についての説明があった。大洲城の見学も好評であった。



福祉分野では、午前中に大洲ふれあいスクールを訪れ、活動場所を見学したり、取組についての説明を受けたりした後、関係職員と意見交換を行った。



大洲保育所では、園児の踊りによる歓迎を受けた後、一緒に給食を食べ、昼休みには一緒に遊ぶことができた。園児がお昼寝になったところで、市の担当者から保育行政についての説明を受け、職員と意見交換をした。



製造分野では、ブルーム・クラシックと仙味エキスを見学した。ブルーム・クラシックでは、化粧品の製造工程を見学した後、関係者との懇談会を持ち、製品の企画・製造や企業で働く意義などについて話し合うことができた。



仙味エキスでも、業務用調味料や機能性食品素材の製造工程を見学した。VTRでの説明や、社員との意見交換で研究開発型食品製造会社の運営や職員の職業観について理解を深めた。



ホストファミリー対面及び交流会

和やかな雰囲気の中でお互いを知ることができた。ホームステイへの緊張を和らげるとともに、スムーズにホストファミリーにとけ込むことができた。



12月12日(日)

ホストファミリーとのお別れ会「文化交流の夕べ」

ホームステイを終え交流の家に帰ってきた参加者は満足げであった。また、ホストファミリー



ーと日本の伝統文化を一緒に体験し、最後は、涙を流して別れを惜しむ姿も見られ、2泊3日のホームステイプログラムがお互いにとって大変有意義なものであったことが伺えた。

12月13日(月)

全体評価会

評価会では、ドイツ団から、このプログラムで学習したことやドイツに持ち帰ることができる考えや技術についての他、来年度への改善点や継続すべきことなどについて、研修テーマを踏まえての発表があった。また、それぞれの立場からのコメントもあり、今後の事業運営に向けて、有意義な会となった。

11. 参加者の声

プログラムはとても良く構成され、内容豊かで多様だった。時間配分はとても詰まっていたが、この交流から最大のものを引き出せるように調整されていた。

日本の職業生活への概観を得ることによって私の社会生活への観点、私自身の仕事に対する見方がより研ぎ澄まされた。今度、何週間か何ヶ月後にその意味を増してくるようなとても意味のある経験だった。

この交流プログラムは、通常の旅行者が決して得られない一度きりの素晴らしい経験でした。ドイツ、日本双方で人生の友人を得ることができました。堅い日本人、という偏見は、私は一度も今回感じたことはなく、どこへ行っても心暖かな親密さを感じました。私の職業人生を根本的に変える経験をしました。影響は、構成的なプランということで私の仕事に影響を及ぼします。最後に、私はこの国にとっても魅了され、それは私的な、また職業上の人生を刻印するものになったと申し上げたいと思います。

12. 成果と課題

ドイツ団の企業等訪問・ホームステイでの団員との交流をとおして、企業・地域サイドも国際交流に関わる必要性や興味を持つようになった。また、この事業を計画・実施する過程をとおして、近隣市町村国際交流担当部局間及び当施設とのネットワークの構築とこの政府間交流事業を広く紹介することができた。さらに歓迎レセプションに地元農業高校の国際理解・郷土研究部生を招き、ドイツ勤労青年との交流をとおし団員の職業観や郷土愛にふれることで、自分たちの就職や郷土について改めて考える機会となった。